

(議事について、事務局より説明)

(会議の公開を決定)

議題 神奈川文化芸術振興計画の改定案について

事務局から資料 1-1～2-2 について説明後、次のとおり審議を行った。

○伊藤会長

計画改定については、1年半議論してきた。その間、パブリックコメントも行った。パブリックコメントがかなりの数出されている。パブリックコメントと、2回の審議会の意見を踏まえ改定案が示された。パブリックコメントには、反映したもの、今後の参考とするものなど様々あるが、これらも踏まえて質問、意見があればお願いしたい。

○蜂飼委員

重点施策5に関わることで発言する。神奈川近代文学館に関する事で、収蔵庫の状況について皆様と共有したい。環境整備にかかわる点である。当初は収蔵可能資料数125万9千点と想定していた。現在131万点を超え、想定を超過した状況である。現状は、収蔵スペースを空けるために棚に収めるべきものを段ボールに入れ積み上げ凌いでいる。あと数年で収蔵庫の限界を理由として、寄贈を断る事態に陥る可能性が高い。これまでも神奈川近代文学館は活動が高く評価されてきている施設であり、寄贈申込みが増加傾向にある。例えば特別資料、主に肉筆資料を指すが、今年度は昨年度同時期の8倍である。絵画などの美術作品と違い、原稿や創作メモは文学館で保存しないと散逸するおそれがある。この状況に危機感を抱いている。この問題について今後も様々な角度から検討していただくことがより良い活動につながっていくと考え、現時点での報告とする。

○伊藤会長

計画の中では一般的な記述で、「収蔵スペースの確保など、計画的な維持・保全・拡充」に努めることが記載してあるが、個別のことについては個々に検討をお願いしたいと思う。美術館でも収蔵品が増えているのは全国的な問題。展示室が立派だが、保存環境が手薄という問題は全国的に発生している。他に意見があれば発言をお願いする。

○井上委員

青少年センターに演劇資料室がある。演劇の資料館は全国的に少ない中で、貴重な存在。収蔵に苦労している。配慮をお願いしたい。

○伊藤会長

計画の本文の記載について、未病については前回大きく議論になった。改定案では高齢者に絞った形で整理したがいかがか。

○中村委員

未病の記述について、県内の子どもに関する文化芸術活動に携わっている知人から「未病」に違和感があると話を受けた。「未病改善」にまで文化芸術は責任を持ってない。文化芸術では社会参加までだと思ふ。パブリックコメントでの指摘を受けて「社会参加」に文面が限定されたのは良かったと考え

る。

前回の改定素案では、「未病改善」が複数使われていたところ、審議会での議論を踏まえて大幅に減らした経緯がある。今後主に高齢者福祉との連携も踏まえ、その文脈でのみ言葉を残した改定案には納得しているが、それでもパブリックコメントではその言葉が引っかかるという意見が出た。「未病改善」は難しい言葉であり、使い方に気を付けてほしい。

○関口委員

収蔵の問題について発言する。改定案3ページの神奈川県文学振興会の記述において、改定素案では「県ゆかりの文学資料の収集、展示等」とあったが、今回の改定案では抜けた。限定的になったと思われる。元の表現を残したほうが良いのでは。

○高橋文化課長

パブリックコメントの意見を踏まえた修正案であるが、収蔵についての記述を残したほうが良いのであれば、その修正も検討する。

○蜂飼委員

改定案では「コレクション」と言い換えているところが、改定素案上での「収集」にあたるかと思う。さらに、改定案では具体的な活動も述べられた文言になっていると思う。

○関口委員

改定案の具体的な記述を否定するものではない。改定素案にあった「収集」という表現を残したほうが良いのではないかと思った次第である。

○伊藤会長

今のままでも通用するという意見もあるところだが、「コレクション」は誤解を受けるかもしれない。可能であれば、軽微な修正の可能性も検討いただきたい。

○平野委員

「収集」は重要と考える。コレクションだけだと、現在あるものだけという感じがする。収集・寄贈を欲しているとニュアンスが伝わったほうが良いかと思う。コレクションという言葉は生かしたままでも構わない。また、県には公文書館があるが、文学館との区分の違いはどのようになっているか。古文書の読み方など文学的に関係があり、県内の旧家から寄贈された重要なものも公文書館にはある。

○高橋文化課長

公文書館は県の行政文書等を保管する施設と認識している。一部、古文書のようなものを受入れている部分もある。過去の神奈川県についてわかる資料ということで受入れをしていると思うが、基本は文化芸術という面ではなく、記録として受け入れている。文化施設として位置付けることは難しいと思うが、同じ県の施設として、必要に応じて連携もしていきたい。

○伊藤会長

県に歴史資料館はあるか。一般的には公文書館は行政資料が中心だが、歴史資料館は郷土資料なども含めて収蔵する。基礎自治体レベルでは郷土資料館みたいなものが要請され作られている。歴史資料館は県立施設として抜け落ちている施設であることも多く、位置付けを確認したい。

○高橋文化課長

歴史博物館がある。当計画にも位置付けており、連携も図っていく。

○伊藤会長

計画改定案について意見を述べる。中間支援について記載された点は良いと思う。ただし、読んだときにわからない人が多いと思われるため、注記を入れたほうが良いかと感じた。

○平本委員

第2部推進体制について、全体的に「進めていきます」、「実施していきます」など、県のスタンス、決意を語っているように受け取った。意義深いものであると思う。その中で、「1 市町村」のみ「必要があります」とトーンが落ちているように感じた。

○高橋文化課長

「県域の均衡ある文化芸術の振興」と大きな視点で記述をしている。県自身が個別の取組を進めるのであれば、相応の記述もよいかと思うが、そのようなニュアンスも含め、現状の記述となっている。

○伊藤会長

市町村連絡協議会などの取組もあるかと思うが、その役割を計画に記載する必要があるか否かという点などについて、次回の改定時にはどのように整理するか考えていけるとよい。

○内田委員

重点施策5の取組内容の3つ目。情報発信と書いてあるが、どのくらい効果があるかわからない。ポータルサイトからの情報発信では支援を感じられない。何か数字が見えると、情報発信にかける意識とかが変わる

○中里マグカル担当課長

ポータルサイトとしてマグカル・ドット・ネットを運営しているが、昨年度のページビュー数は47万ほどである。運営に当たっては、イベントや各機関の取組の情報発信を、時宜をとらえて行っている。

○高橋文化課長

ページビュー数に関して、計画の年次報告の中で報告している。

事務局から資料3について説明後、次のとおり審議を行った。

○大下委員

答申の重点施策4に関する点について、文化観光が記述された。今以上に外国人市民が増えていくであろう将来を見据えると、ダイバーシティ、地域の中で国際的に理解していく視点も重要となってくると考える。計画改定案の重点施策4のなかに「多文化理解の推進」ともあり、国際理解の視点についても期待することの中に入れていただければと思う。

○高橋文化課長

事務局で案を作成した際、新たに盛り込んだ文化観光の側面を強調する形で整理したところである。御意見のとおり、現状の文化観光と並列で多文化理解の推進に関することも入れることで検討する。

○山田委員

重点施策2の学校部活動に関する記述について、全体的に「取り組む」としているが、「人材の育成に取り組む」は良いと思う。後段の、「教育分野との連携を強めながら取り組む」の部分はこれまでの審議会の議論を踏まえると「検討を進める」など、もう少しトーンを落とすように表現を変化させてもよいのではないか。また、答申2ページの冒頭に「多くの」が重なるため、一つ目は要らないと考える。

○高橋文化課長

部活動に関しては、教育委員会と連携しながら進めている。1月からは、指導者登録のデータベースの取組も始まっている。文化だけでなくスポーツとともに進めていく内容であるため、御意見のとおり、表現を変えるべきか検討する。

○井上委員

改定案に反映を求めるものではないが、前回の答申で、オリパラのレガシーを引き継ぐとあるが、今回の答申ではレガシーの件は薄い。県として、レガシーについて、どのように評価しているか教えてほしい。また、地域クラブ活動の指導者データベースについては、チラシの見た目からすると、文化側は関係ないと見えてしまう懸念を持った。県がデータベースを作ることについて、市町村との整合性はどうか教えてほしい。

○中里マグカル担当課長

レガシーについて説明する。東京2020大会は、共生社会の実現を目指して行われた。共生社会の実現を目指す理念を引き継いでいくため、だれもが文化芸術に触れられるよう共生共創事業を行っているほか、マグカル展開促進補助金でも高齢者・障がい者への重点的な支援をしていけるよう特別枠を設定している。公式文化プログラムを県内でも実施したことから、オール神奈川で文化芸術に取り組むイメージで県民文化祭として9-12月に文化イベントの一体的な広報を市町村とも連携しながら行っている。

○高橋文化課長

データベースについて、例えば横浜市などでは部活動指導員のデータベースを持っている承知して

いる。県のは、地域移行のために地域の団体が受け皿になることを想定して指導できる人材を登録してもらうためのデータベース。利用方法は、県は指導者の情報を集め、ホームページで公表し、指導者を探している学校・地域が、公表情報を見て、直接連絡してもらい、個々に話を進めてもらうという形になる。

○井上委員

県と市町村で二重に同じ情報を集めると、二重行政になってしまうのではないかと懸念する。市町村との連携を密にやってもらえるといい。レガシーについては、よくわかった。継続されるようお願いする。

○高橋文化課長

市町村のデータベースについては持っているところとないところがあると聞いている。県のデータベースの意義としては、市町村に限定されず情報を提供でき、市町村をまたいで指導者を探ることができるということ。現在は部活動と地域移行の過渡期であり、二重感があるという意見もあり、市町村とも情報共有しながら進めていく。

○久野委員

改定案の重点施策5に「補助金」や「助成金」と書いておらず、「支援」という表現になっている。具体的に助成金が出ることを書いてよいのではないか。答申の3ページ重点施策5に関する記述について、「打ち出され」で終わる記述が2か所重複していると思われる。

○高橋文化課長

支援について、助成なり補助なりそのままを記載する選択肢もあるとは思いますが、その他の支援の取組も含め、包括的な「支援」という表現で整理した。

○伊藤会長

支援には、経済的な支援以外にも中間支援的なアーツカウンシルの設置もあるが、組織だったことは今回の計画改定案には載せていない。今回の計画には反映できなかったが、今後の課題として議論は必要。基金などの安定的な支援形態などの検討も必要。

○平野委員

改定案の3ページ「2 芸術家及び文化芸術を支える活動を行う者」の文末「環境の整備」とはどのようなものかと思った。支援や助成だとよくわかるのだが、他の表現がないか。

○伊藤会長

この項目では、お金のことなのか、組織を作るのかなど具体的なことは書けないがゆえの表現ではないかと思う。環境の整備が何なのかは計画を進めていく中での課題として認識するものでもないか。

○高橋文化課長

中間支援の幅広さを意識しての表現である。環境という言葉が良いのかという意見もあるかと思うが、広い意味でこの記述にしている。

○関口委員

県の文化の予算はここ数年着実に増やしてきている。予算資料を参考資料として入れても、審議会の議論で出た意見に対する活動実績の裏付けにもなると思う。

○高橋文化課長

県の予算資料を参考資料に入れることも意見として頂戴する。ただし、当計画に紐づく予算は文化課の持つものだけでなく、他所属の予算の中で一部が文化芸術の活動に使われているものなど、細かく全容をお示しすることは難しい。そのような事情もあり、毎年度、当計画については年次報告を作成し、その時々々の個々の実績を公表しているところである。予算部分までは見えない点は御指摘の通りであり、課題として認識している。

○内田委員

改定案の重点施策5「施設の機能としての人材育成」とあり、演者や音響などの裏方まで人材育成はあると思う。その記述にプロフェッショナルとあるが、そのレベルまで、県として可能なのか。

○高橋文化課長

施設の機能として、例えば、K A A T 神奈川芸術劇場では、文化芸術の裏方等に対して更なるレベルアップを目指すような研修の機会も設けている。高校生向けの人材育成もあるが、このような取組も踏まえての記述である。

○伊藤会長

今日の意見をもとに改定案、答申案の修正を適宜行い、事務局と調整していくのでよろしく願います。

事務局から参考資料1～7について説明後、次のとおり審議を行った。

○伊藤会長

県の総合計画についてはこの審議会で議論するものではないが、数値目標については気になるところである。満足度は100に近いといいといえるが、PV数は50万がいいなどの基準がない。今後の審議会の議論の中でも再検討が必要かと思う。

○大下委員

通常の市レベルの個別計画を考えると計画のもとに課題があり、取組内容があり、事業がある。そして、事業を単年度ごとに評価していくため、予算や取組内容、K P I を整理していく。この総合計画の下にはそうした事業などはあるのか。また、総合計画の指標、K P I と文化芸術振興計画との相

互性についてどのように考えているのかを教えてください。

○高橋文化課長

総合計画と文化の計画の位置付けについて、総合計画は県全体の計画であり、文化の計画ともリンクしている。総合計画では、数値目標を立てることとしているため、文化の計画ではこれまでもあえて数値目標は設けず、総合計画の数値目標を参考とするよう整理している。

○大下委員

例えば、文化の計画において重点施策5があり、取組内容があり、その中に位置づく事業は整理されているのか、HP等で閲覧できる状況にあるのか。

○高橋文化課長

各重点施策の取組内容の中に位置づく事業は整理している。計画自体には明記されないが、年次報告で個々の事業は位置づく重点施策も含め報告内容として公表している。

○平本委員

参考資料1に関して、マグカル・ドット・ネットのページビュー数の話があったが、私が実施したイベントで情報の入手方法についてアンケートを行ったところ、県のたよりが多かった。県のたよりは紙媒体であるが、インターネットの情報は積極的に取りに行くもの。県のたよりは、受動的にふと目につく感じだが、これが非常に効果的でもある。計画改定案の中で支援とあるが、イベントを開催する団体等のPRについてもバックアップをしてもらえると助かる。媒体として県のたよりは有効だと感じた。

○高橋文化課長

年齢層によっても様々な媒体を活用していくべきだと思っている。県のたよりは訴求効果もあるが、枠の取り合いがある。有効的だという御意見も踏まえ、努力していく。

○内田委員 紙媒体は効果的なので、私からも要望したい。また、広報に関して、SNSの活用に踏み込むべき。情報があふれる中で、人に届く情報発信について目標立てて取り組んでいただけるとよい。

○伊藤会長

広報の問題は重要。年次報告の時にも議論できる課題だと思う。今後も検討していきたい。

○蜂飼委員

改定案3ページの神奈川文学振興会の記述についての話に戻る。コレクションの言いかえとして「所蔵品」「収蔵品」が妥当。「文学資料の収集、所蔵品を生かした文学展の企画」という表現はいかがかと思った。

○久野委員

支援の言葉の使い方について、重点施策5の取組内容について、冒頭の支援と文末の支援と重複感

がある。

○平野委員

同じく重点施策5の取組内容2つ目の記述について、「人材の育成を進める取組を推進」も「進める」と「推進」が重複しているように思える。

○伊藤会長

表現については、直せるところは整理していく。今回修正できなければ今後の課題として受け止める。

○井上委員

最後に、部活動の地域移行についてのパブリックコメントが800件近くあった。どうしてもスポーツのほう为主导して物事が進んでいると感じざるを得ない。文化部活動に対する配慮について、部活動の地域移行に関する何かの機会に発言していただければと思う。

○伊藤会長

他に発言がなければ以上で本日の審議会を終了する。